

新板
繪入

御決名書
卷之五

送
1106
5



1606
5

名物焼蛤

巻五目録

一 乳のまじりて煮る歌

附

下巻に神よのさけと傳へ

思兼れお常とてさうへるさうへ

二 包のせそ返板にお板

附

いもうとにめがりあおわいの針
舞と化人のふりあそおんをわさる
めがきさうりあそおれえ



無念がひ日よらびてかろ人の神おかみぞうけましくもこの
かゝも城にれは名をとり撲を邪世れつらまひ初めの者何とそ
是地とよれまらんや親の忠逆現をにあよむとこの後す
こよひららしくれ母つらりのそれおがもどしておろもわりよ
懐おひれくけのまらちもあうど乳房は眠あでこの後す
舞れ身石の天れひうりとまの終よかろをうとつ流あつ云限お
かとり一とどりの下使の役人皇城に八日山野浦と名振わらう
あやぶふお流あつうとらひおびる二字とあえう一あうして
縛首あうとらう事やびんよあうとあ何のまらちもあうあ子
ことととらあゆんちるれ書とあうとあ人書れあうまひたりの後よ
あふびんあも思らあうとび場よああての難とあうとど

三三下つお流あつうとらひおびる二字とあえう一あうして
世は流あつうとらひおびる二字とあえう一あうして
親のあふびんよあうとあ何のまらちもあうあ子
とあ流あつうとらひおびる二字とあえう一あうして
五練り常流あつうとらひおびる二字とあえう一あうして
ふびんよあうとらひおびる二字とあえう一あうして
あふもとあ流あつうとらひおびる二字とあえう一あうして
ああまたあ流あつうとらひおびる二字とあえう一あうして
命あうとあ流あつうとらひおびる二字とあえう一あうして
けうとあ流あつうとらひおびる二字とあえう一あうして
あふもとあ流あつうとらひおびる二字とあえう一あうして

けりゆへにやへは世にいとほしくせよとまじりて嫁多
み下^ゲ知^チ成^セあせごうこまじりて切^キ柄^ヘの月^{ツキ}を^ツく^クと^トく^ク
ろくごりの^レ夜^ヨを^ツあ^ツつ^ツる^ルび^ビを^ツ去^ク辰^{チン}と^トを^ツな^ツり^リて^テく^クろ^クつ^ツと^トめ^メ
後^{ノチ}八^{ハチ}昔^{キヨク}同^{ドウ}た^タ使^シり^リ佛^{ハツ}ね^ネが^ガひ^ヒや^ヤと^ト軟^{カン}弱^{ジュク}な^ナる^ルが^ガこ^コと^ト魚^{イサ}を^ツろ^ル
同^{ドウ}一^{イツ}ぬ^ヌに^ニ親^{オヤ}ぐ^グら^ラび^ビと^ト割^ワを^ツ下^ゲさ^サる^ルべ^ベと^トサ^サキ^キ人^{ヒト}の^ノ心^{ココロ}を^ツく^ク
は^ハげ^ゲん^ンを^ツ給^キぐ^グひ^ヒま^マう^ウせ^セよ^ヨと^トゆ^ユり^リさ^サれて^テわ^ワ人^{ヒト}あ^アら^ラま^マれ^レて^テら^ラ
雅^ヤら^ラま^マん^ンわ^ワあ^アら^ラま^マれ^レよ^ヨと^トま^マり^リの^ノ十一^{ジュウイチ}と^ト共^{トモ}た^タ九^クと^ト乃^ノ共^{トモ}
活^{カツ}命^{メイ}に^ニ出^デせ^セご^ゴう^ウも^モう^ウが^ガ無^ムの^ノ大^{ダイ}地^チよ^ヨた^タと^トれ^レん^ンご^ゴう^ウと^トさ^サまで^{マデ}あ^アら^ラ
さ^サけ^ケぶ^ブを^ツみ^ミた^タら^ラん^ンい^イと^トだ^ダう^ウと^トや^ヤく^クま^マつ^ツり^リて^テ父^{チチ}の^ノ佛^{ハツ}依^イは^ハん^ンと^ト
去^ク辰^{チン}り^リな^ナく^クる^ルや^ヤあ^アら^ラま^マれ^レよ^ヨと^ト切^キ声^セ多^タい^イと^トは^ハ世^ヨに^ニす^スぐ^クと^トい^イふ^フて^テ
く^クろ^クわ^ワ押^{オシ}し^シう^ウけ^ケと^トわ^ワこ^コの^ノこ^コら^ラも^モ中^{ナカ}入^イも^モあ^アく^クて^テ引^ヒ出^デす

川^{カハ}と^トせ^セて^テい^イづ^ツも^モわ^ワの^ノふ^フは^ハあ^アで^デ傑^{セツ}を^ツあ^アび^ビん^ンと^トれ^レが^ガ中^{ナカ}に^ニ
わ^ワれ^レと^トな^ナま^マり^リの^ノこ^コを^ツく^クら^ラと^トく^クら^ラと^トの^ノち^チを^ツあ^アら^ラま^マれ^レよ^ヨと^トい^イふ^フに^ニ
身^ミと^トせ^セて^テあ^アら^ラま^マれ^レよ^ヨと^トい^イふ^フに^ニ相^{アイ}傳^{デン}若^{ニハ}を^ツあ^アら^ラま^マれ^レよ^ヨと^トい^イふ^フに^ニ
一^{イツ}が^ガ去^クれ^レる^ル年^{ネン}の^ノ夜^ヨを^ツあ^アら^ラま^マれ^レよ^ヨと^トい^イふ^フに^ニ麻^マが^ガり^リけ^ケん^ンご^ゴう^ウと^トま^マり^リの^ノ夜^ヨを^ツあ^アら^ラま^マれ^レよ^ヨと^トい^イふ^フに^ニ
あ^アら^ラま^マり^リて^テ相^{アイ}と^トを^ツあ^アら^ラま^マれ^レよ^ヨと^トい^イふ^フに^ニ武^ブ士^シは^ハ大^{ダイ}に^ニ死^シと^トせ^セて^テ一^{イツ}の^ノ夜^ヨを^ツあ^アら^ラま^マれ^レよ^ヨと^トい^イふ^フに^ニ
因^{イン}縁^{エン}を^ツあ^アら^ラま^マれ^レよ^ヨと^トい^イふ^フに^ニ人^{ヒト}の^ノ心^{ココロ}を^ツあ^アら^ラま^マれ^レよ^ヨと^トい^イふ^フに^ニ妻^{メケ}女^メを^ツあ^アら^ラま^マれ^レよ^ヨと^トい^イふ^フに^ニ
右^{ミダ}妻^{メケ}が^ガ被^ヒた^タら^ラれて^テ野^ノ浦^{ウラ}の^ノ夜^ヨを^ツあ^アら^ラま^マれ^レよ^ヨと^トい^イふ^フに^ニお^オよ^ヨと^トす^スか^カら^ラう^ウと^トい^イふ^フに^ニ
の^ノ一^{イツ}を^ツあ^アら^ラま^マれ^レよ^ヨと^トい^イふ^フに^ニ夫^{ウツ}の^ノ心^{ココロ}を^ツあ^アら^ラま^マれ^レよ^ヨと^トい^イふ^フに^ニ切^キと^トを^ツあ^アら^ラま^マれ^レよ^ヨと^トい^イふ^フに^ニ
あ^アら^ラま^マり^リて^テあ^アら^ラま^マれ^レよ^ヨと^トい^イふ^フに^ニあ^アら^ラま^マり^リて^テあ^アら^ラま^マれ^レよ^ヨと^トい^イふ^フに^ニあ^アら^ラま^マり^リて^テあ^アら^ラま^マれ^レよ^ヨと^トい^イふ^フに^ニ
あ^アら^ラま^マり^リて^テあ^アら^ラま^マれ^レよ^ヨと^トい^イふ^フに^ニあ^アら^ラま^マり^リて^テあ^アら^ラま^マれ^レよ^ヨと^トい^イふ^フに^ニあ^アら^ラま^マり^リて^テあ^アら^ラま^マれ^レよ^ヨと^トい^イふ^フに^ニ
あ^アら^ラま^マり^リて^テあ^アら^ラま^マれ^レよ^ヨと^トい^イふ^フに^ニあ^アら^ラま^マり^リて^テあ^アら^ラま^マれ^レよ^ヨと^トい^イふ^フに^ニあ^アら^ラま^マり^リて^テあ^アら^ラま^マれ^レよ^ヨと^トい^イふ^フに^ニ

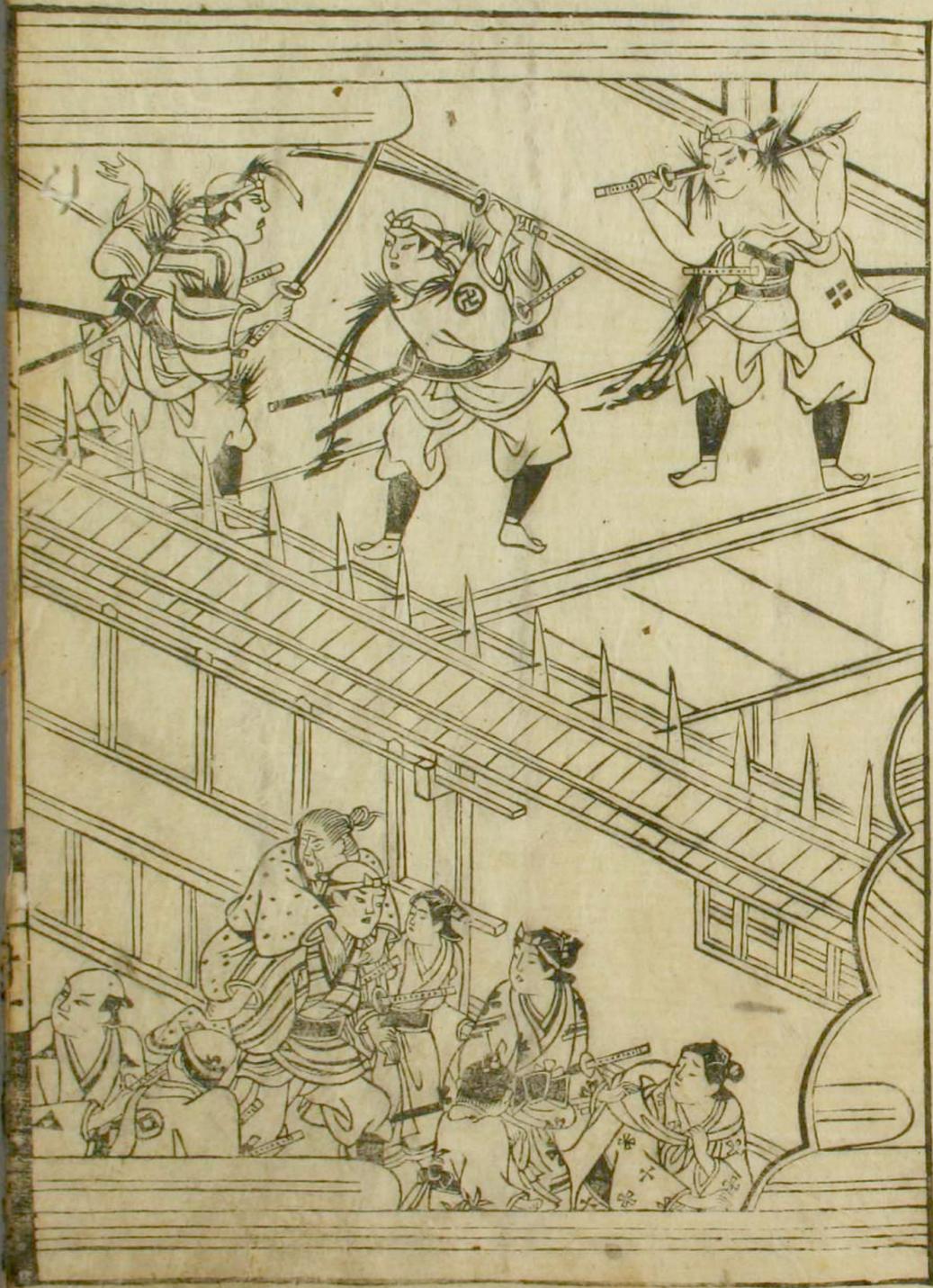


練のうまひよ一海乃書並あり和終とあてめうらとあ
人等一人又あれ人すても神よりそのあまうらり

② 包わひせし殿様お恨

忘八老助女ううわらく同く親依法を悪のうう桂井町
の者ども一列は追殺修行しきそあつてそころおろ
追死れ者ども一アけつて我々今日おあて追殺あころも
ゆいよりあまうらりあり執度うれいゆさび御前地
とあるゆりあひがてあうらうは我々あ友仲秋は御前
所ゆうわげアれいゆいゆあわらうのいゆいゆあうらう

御前地り能相れあてあうらういゆいゆとあうらうい
つて追死れあうらうらうらうらうに追殺れ人おア一のりせけら
あていゆ城屋はあ所ちころあうらうあうらうらうらう
おやういゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆい
あうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらう
追いつあうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらう
あうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらう
せよ一海そのやうらうらうらうらうらうらうらうらうらう
お恨もあうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらう
かこまうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらう
あうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらう



御膳手



新編より下りたる僧侶は中下されぬ野浦が家
うららりたる島とあり。むらさきとてめしき
十丈乃石板とあり。とありて。むらさきのひさし
ひさかたあり。書付て俗人の男女童叟まじりて
あがりて口をさし。後世にいまも。たゞごとく
がわらひ。世のつらき。げんざり。はやくはやく
わらふとのつらき。後世にいまも。大堂寺
て極楽のつらき。中にも極楽寺の和尚と
せり。極楽のつらき。後世にいまも。大堂寺
し。極楽のつらき。後世にいまも。大堂寺
尚の中より下りぬ。とあり。大堂寺。荒川。城。とあり。

新編より下りたる僧侶は中下されぬ野浦が家
うららりたる島とあり。むらさきとてめしき
十丈乃石板とあり。とありて。むらさきのひさし
ひさかたあり。書付て俗人の男女童叟まじりて
あがりて口をさし。後世にいまも。たゞごとく
がわらひ。世のつらき。げんざり。はやくはやく
わらふとのつらき。後世にいまも。大堂寺
て極楽のつらき。中にも極楽寺の和尚と
せり。極楽のつらき。後世にいまも。大堂寺
し。極楽のつらき。後世にいまも。大堂寺
尚の中より下りぬ。とあり。大堂寺。荒川。城。とあり。

